

# 地域医療を支える急性期病院としての さらなる発展に向けて

理事長 貞方 洋子



南風病院の年報がこのような形で発行されるようになってから、平成20年度で3年目になります。内容的にはまだまだ発展途上ですが、本年報をご覧になられた地域医療機関や地域住民の皆様からは、ご指摘と共に温かい励ましの言葉も頂戴しております。この場をお借りしまして心より感謝の気持ちをお伝えしたく御礼申し上げます。

南風病院は創設より公益法人として、その役割と公益性という使命を真摯にとらえ、その達成に向けて様々な改善・改革をおこなってきました。その成果が認められ、平成17年度に鹿児島県より地域医療支援病院として承認されました。この年報もその収穫の一つになりますが、その時々南風病院の方向性や経営実態のありのままを、できるだけ分かりやすく、タイムリーに地域の皆様にお伝えすることを目的として編纂しています。

当院の方向性は、西侯院長よりいつも申し上げておりますように、一つの大きな柱としての“がんの診断・治療の集学的センター化”。また、急性期病院として“各診療科の専門性の追求”。さらに地域医療支援病院として“地域と共に歩む地域完結型医療の実践”を目指しています。おかげさまで平成20年度には、病院の方向性に沿って、鹿児島県がん診療指定病院に指定されました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

一方、病院経営の実態ですが、当院もご他間にもれず平成20年度は医療費抑制策の影響を受け、全体として患者数減の結果になりました。また、平成22年度に予定されている診療報酬改定ではさらにそれに追い討ちをかけるかのように、DPC病院の調整係数の廃止が話題に上っており、今後も非常に厳しい医療情勢が続く見込みです。

そういう意味でも平成21年度は、新入院患者の確保や病床稼働率アップが喫緊の課題です。基本方針を“地域医療を支える急性期病院としての、さらなる発展に向けて”とし、救急医療の提供やがん医療体制の充実など9項目の重点目標に取り組んでいます。今年度も病院の理念である“人にやさしく、あたたかく”を全職員が共有し、地域から信頼される医療、選ばれる病院づくりに邁進して参ります。

末筆ながら、今後ともご高配とご鞭撻を受け賜りますよう、心よりよろしくお願ひ申し上げます。

Nanpou Hospital